

ASEAN 大使通信
第 18 回 日 ASEAN 協力プロジェクトの推進

2024 年（令和 6 年）5 月 31 日



ASEAN ブルーエコノミー・イノベーション・プロジェクト開始式典
（2024 年 5 月 14 日、UNDP 提供）

皆さん、5 月はどのように過ごされましたか。日本では 4 月末から 5 月上旬にゴールデンウィークの連休に仕事がストップしますが、当地では ASEAN との関係で様々な会議や行事が次々と開催され、引き続き慌ただしい一か月でした。

5 月初めは、パリの OECD 閣僚理事会で OECD 東南アジア地域プログラム（SEARP）10 周年記念式典が開催され、岸田総理やカオ・キムホン ASEAN 事務総長も出席しました。中旬は、ASEAN 本部／事務局で ASEAN ブルーエコノミー・イノベーション・プロジェクト開始式典、日本と ASEAN 政府間人権委員会（AICHR）の会合が開催されました。下旬は、カオ・キムホン ASEAN 事務総長が訪日し、広島と名古屋近郊、そして東京で多くの行事や会合に出席しました。

今月の一連の行事や会合を通じて感じたことは、今が日 ASEAN 協力プロジェクトを立ち上げて推進する好機だということです。一か月を振り返りながら、日 ASEAN 協力プロジェクトの推進について皆さんと一緒に考えたいと思います。



OECD 東南アジア地域プログラム（SEARP）10 周年記念式典
（2024 年 5 月 2 日、内閣広報室提供）

● 東南アジアと OECD の連携推進

5 月 2 日～3 日、パリの OECD 本部で、OECD 加盟 60 周年を迎える日本の議長国の下で OECD 閣僚理事会が開催され、日本からは岸田総理ほか 5 閣僚が出席しました。

開会式の直後に、[OECD 東南アジア地域プログラム（SEARP）10 周年記念式典](#)が開かれ、カオ・キムホン ASEAN 事務総長や多くの ASEAN 諸国の閣僚が出席・挨拶しました。[SEARP](#) は、政策対話などを通じて東南アジア諸国による OECD のルールやスタンダードへの参加や国内改革を促進するためのプログラムです。前回日本が閣僚理事会議長国を務めた 2014 年に立ち上げられ、インドネシアの加盟ロードマップ採択、タイの加盟申請などの成果につながりました。

岸田総理大臣は式典冒頭で[スピーチ](#)を行い、「日本 OECD・ASEAN パートナシップ・プログラム（JOAPP）」の立ち上げを新たに発表しました。これは、信頼できるデータと分析という OECD の強みを東南アジアの持続可能な成長に繋げるために、民間投資、連結性、持続可能性、デジタルといった分野で、専門家派遣、調査・分析・研修を 3 年間で 800 万ユーロ（約 14 億円）規模で実施するものです。日本は東南アジアと OECD の連携推進に引き続き尽力する考えです。



ASEAN ブルーエコノミー・イノベーション・プロジェクト記者会見
(2024 年 5 月 14 日、UNDP 提供)

●ASEAN ブルーエコノミー・イノベーション・プロジェクト

5 月 14 日、[ASEAN ブルーエコノミー・イノベーション・プロジェクト](#)の開始式典を、ASEAN 本部／事務局で、ASEAN 事務局・UNDP と共催しました。このプロジェクトは、ASEAN 首脳が昨年合意した ASEAN ブルーエコノミー枠組みを実施に移すものです。ASEAN と東ティモールの 11 か国で海洋・淡水関連イノベーション事業を公募し、最優秀の 60 企業・団体を選考して資金・インキュベーション支援を行います。年末には日本企業を含む民間セクターとのマッチングを行う予定です。

ASEAN 自身の重点施策と UNDP のグローバルな専門性を日本が結び付けて、インド太平洋の海洋協力を推進し、更に ASEAN と日本のイノベーションの共創を通じて、官民連携によるスケールアップを目指します。今回の式典にはカオ・キムホン事務総長もビデオメッセージを寄せ、欧州や豪州・NZ などパートナー国大使も多数参加しました。ジャカルタポストをはじめ東南アジアの主要紙に[共同寄稿](#)も行い、共同記者会見は ASEAN 各国で広く報道されました。

事業公募の締切は、当初の 5 月末から 1 か月延長されました。多くのアイディアの実現を通じて、インド太平洋地域の発展に貢献することを期待しています。



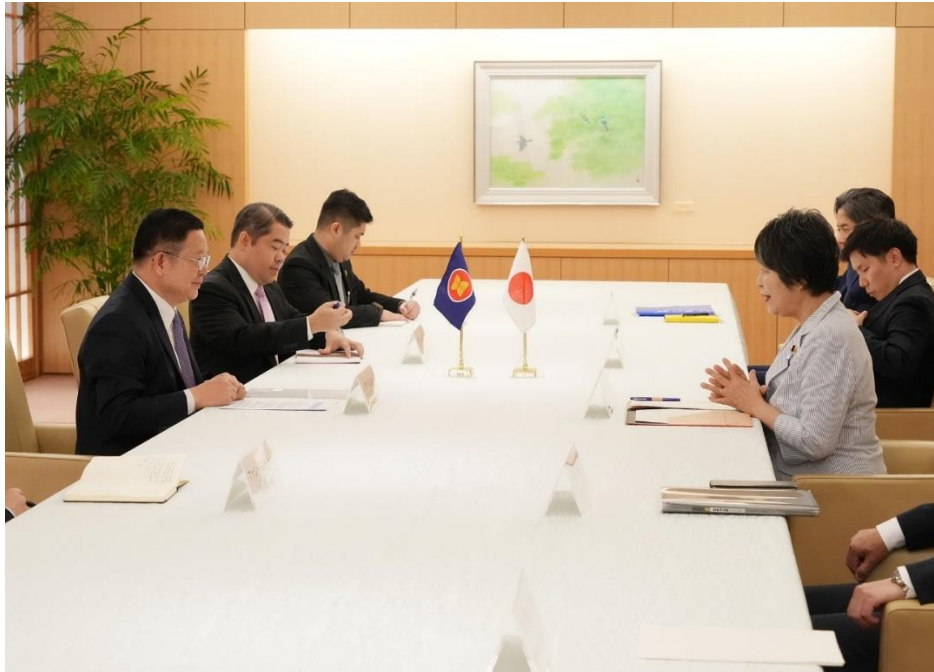
第3回日 AICHR インターフェース会合（2024 年 5 月 22 日）

●人権分野での日 ASEAN 協力

5 月 22 日、ASEAN 本部／事務局での ASEAN 政府間人権委員会（AICHR）総会の機会を捉えて、[第3回日 AICHR インターフェース会合](#)が開催されました。昨年 11 月の[第2回会合](#)でその後の定期開催に合意し、翌 12 月の[日 ASEAN 特別首脳会議](#)で共同ビジョン・ステートメントと実施計画を採択して日 AICHR 協力の更なる推進で一致したことを受けて、今回の会合では、具体的な協力プロジェクトの形成と実施について協議が行われました。

私からは、これまでの協力実績と今後の方向性について[プレゼン](#)を行いました、そして、ASEAN 日本政府代表部のみならず、当地出張中の法務省法務総合研究所教官や在ジャカルタの JICA 専門家も出席し、ASEAN 側からの意見や要望に耳を傾けました。

今回の議論では、2015 年の第 1 回会合以来、日 AICHR 協力が「[ASEAN 障害者の人権主流化マスタープラン](#)」の採択で大きな成果を上げたことを踏まえ、まずは日 ASEAN 双方が重視する大きな課題である「ビジネスと人権」を中心に協力プロジェクトの具体化を目指すことで一致しました。更に、ASEAN 各国 AICHR 代表からは様々なアイディアや要望が提示され、並行して検討することとなりました。この人権の分野でも、日本と ASEAN が双方から学ぶ「共創」を目指していきたいと思います。



カオ・キムホン ASEAN 事務総長と上川外務大臣の会談（2024 年 5 月 23 日）

●カオ・キムホン ASEAN 事務総長の訪日

そして、5 月 19 日から 25 日まで、カオ・キムホン ASEAN 事務総長は ERIA の招待で、本年初めて訪日しました。最初の訪問先の広島では、[広島平和記念資料館の展示を視察し記帳](#)した後、[原爆死没者慰霊碑で献花](#)を行いました。更に、[湯崎広島県知事](#)や[荒神原広島市副市長](#)との意見交換を行うとともに、[広島大学で講演](#)し、特別招聘教授の称号を授与されました。

次に名古屋近郊を訪問し、[JERA の碧南火力発電所](#)でのアンモニア・石炭混焼プロジェクトによる脱炭素の取組と、[デンソーの安城製作所](#)でのデジタルを活用した次世代自動車の製造技術を視察しました。

5 月 23 日からは東京で、[上川外務大臣](#)、[伊藤環境大臣](#)、[武見厚生労働大臣](#)、[齋藤経済産業大臣](#)、[小泉法務大臣](#)、[坂本農林水産大臣](#)、[渡海自民党政調会長](#)、[十倉経団連会長](#)と相次いで会談し、日 ASEAN 協力の推進について協議するとともに、[日経フォーラム「アジアの未来」](#)のデジタル協力のセッションに登壇してパネル討論を行いました。

昨年の 4 回の訪日に続き、今回はカオ・キムホン事務総長にとって初の広島訪問と日本の脱炭素・デジタル関連産業視察、更に特別首脳会議から間もないタイミングでの多数の閣僚との会談と「アジアの未来」登壇が一挙に実現し、日 ASEAN 友好協力 50 周年フォローアップの観点から大変有意義な訪問となりました。



日経フォーラム「アジアの未来」晩餐会での岸田総理スピーチ
(2024年5月23日、内閣広報室提供)

●日 ASEAN 協力プロジェクトの推進

5月23日の日経フォーラム「アジアの未来」晩餐会では[岸田総理がスピーチ](#)を行い、私もジャカルタからオンラインで傍聴しました。今回、岸田総理は、(1) 昨年に続いて今年も ASEAN の国々から若いリーダーを招き、日 ASEAN の未来を語る場を提供すること、(2) 本年8月にジャカルタで第2回 AZEC 閣僚会合を開催するとともに、ERIA でアジア・ゼロ・エミッションセンターを始動させること、(3) ASEAN が次世代自動車産業で世界の中心的な地位を維持し続けるため、日 ASEAN 連携深化に向けた今後10年の自動車戦略を ERIA と共に初めて策定してこの秋にも発表すること、(4) AI や半導体の人材育成に向けてプログラムを策定し、今後5年間で10万人の高度デジタル人材育成を目指すことなどを新たに表明し、これまでの取組を更に前進させました。

昨年12月の日 ASEAN 特別首脳会議は、新たな出発点です。そこで採択された共同ビジョン・ステートメントと実施計画を基盤に、日 ASEAN 協力プロジェクトを具体的に立ち上げて推進することが重要であり、今がその好機です。今月開催された一連のハイレベル行事を皮切りに、是非皆さんと一緒に協力案件を形成・発展させていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いします。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦